

高等学校

平成 16 年 度

教育研究員研究報告書

国

語

東京都教職員研修センター

目 次

研究の背景とねらい.....	2
1 高校生の言語生活の実態.....	2
2 社会が求める国語の力.....	2
3 主題設定の理由.....	2
主題解明の方法.....	3
1 高校生の言語生活の実態調査.....	3
2 学習活動の工夫.....	5
3 指導と評価の工夫.....	6
研究の構想.....	7
「聞くこと」の指導の実際.....	8
1 単元設定の理由.....	8
2 教材選定の理由.....	8
3 指導の工夫.....	8
4 評価の規準.....	9
5 単元の指導計画.....	9
6 生徒の学習活動.....	12
7 成果と課題.....	15
「読むこと」の指導の実際.....	16
1 単元設定の理由.....	16
2 教材選定の理由.....	16
3 指導の工夫.....	16
4 評価の規準.....	17
5 単元の指導計画.....	17
6 生徒の学習活動.....	20
7 成果と課題.....	23
まとめと今後の課題.....	24
1 研究の成果.....	24
2 今後の課題.....	24

研究の背景とねらい

1 高校生の言語生活の実態

平成 14 年度に実施された「高等学校教育課程実施状況調査」の結果によると、学習指導要領の目標や内容に照らした学習の実現状況は、書くことに関して「自ら興味・関心をもったことについて、自分の考えを書く力」については、ほぼ身に付いているとされている。しかし、話すこと・聞くことに関して、話の進め方をとらえ、自分の意見を筋道を立てて述べる力は十分身に付いているとは言えないとされている。また、読むことに関しては、筆者の考えの進め方や表現意図をとらえる力、文章の主題を踏まえて自分の考えを深めたりまとめたりする力が身に付いているとは言えないなど、相手の意図を受けた上で情報を発信する力が不足していることが述べられている。このようなことから、相手の意見を聞き取る力が不十分であると考えることができる。実際の高校生の学習や生活の状況においては、この結果と重なる場面に多く遭遇する。情報を発信する際は、相手を意識することなく一方的に話し、書いていることが多い。逆に受信する際は次の発信に向けて情報を受け止めるという意識が不十分であり、主体的な意識をもつことなく聞いたり読んだりしていることが課題である。

このように、高校生の言語生活は様々な思いや情報を一方的に伝えることにとどまり、伝え合う力として活用されるところまで到達していない傾向にあると言える。

2 社会が求める国語の力

平成 16 年 2 月に発表された文化審議会答申には、身に付けるべき国語力の目標が具体的に挙げられている。聞く力として、話の要旨を的確に把握してその内容を理解する力、話し手の気持ちや主張だけでなく言外の思いや真意を感じ取る力、また場面に応じて最後まで集中して聞く力が重視されている。一方、読む力としては、論理的、説明的な文章において、的確に論理を読み取る力など、相手の意志、情報を受け止める力の育成が重視されている。

こうした要請を踏まえて、現在の高校生の言語生活を振り返ると、携帯メールなどの一方的な情報発信の傾向が強まることにより、本来一体のはずの国語の 3 領域の力が、相互に関連し合いながら発揮されるまでに至っていないという現実が改めて確認できる。発信すると同時に、相手の考えを受け止めることの重要性を生徒に強く意識させることが、これからの国語教育に必要なようになってくると考えられる。

3 主題設定の理由

こうした社会が求める国語力を身に付けさせるためには、生徒の言語生活の現状を把握し、不足している力について特に丁寧に指導することが必要である。国語の 3 領域の力を関連させて発揮できず、受け入れて発信する力の弱い生徒が多い原因は、3 領域の力のバランスがとれていないためであると考えられる。相手を意識し発信することができないのは、受け入れる力が弱いことの現れではないか。発信する力を強化するのであれば、まず受け入れる力を付けさせることが必要であるという考え方が本研究の土台となっている。まず、「聞く力」「読む力」を身に付けさせ、それをもとに「話す力」「書く力」を向上させたいと考えた。そこで、研究主題を「伝え合う力の基礎となる言語の受け手の能力を高める指導の在り方」として研究を進めた。

主題解明の方法

1 高校生の言語生活の実態調査

(1) 調査の目的

高校生の「聞くこと」「読むこと」に関する言語生活の実態を明らかにするために、高校生の「聞くこと」「読むこと」についての経験・態度・能力について調査した。また、教師が感じている高校生の「聞くこと」「読むこと」に関する問題点を明らかにするために、教師からみた高校生の「聞く」「読む」態度・能力の実態について調査した。

(2) 調査対象

高校生を対象とした調査として、研究員が所属する都立高等学校 10 校の生徒、合計 1039 名に質問紙調査を実施した。また、教師を対象とした調査として、研究員が所属する都立高等学校 10 校の教師、合計 57 名に質問紙調査を実施した。

(3) 調査内容

高校生を対象とした調査では、「人に話を聞いてもらってうれしいと思うことがある」「文章を読んで、自分の考えや気持ちを見つめ直すことがある」などの「聞くこと」「読むこと」の経験に関する質問それぞれ 10 項目、「普段、人の話は集中して聞くようにしている」「文章を読むとき、自分の意見や感想を考えながら読むようにしている」などの「聞くこと」「読むこと」の態度に関する質問それぞれ 13 項目、「人の話を最後まで集中して聞けないことがある」「文章を読むとき、最後まで集中して読めないことがある」などの「聞く」「読む」能力に関する質問それぞれ 7 項目について、4 件法で回答を求めた。

教師を対象とした調査では、「数年前と比べて、生徒が話を聞かなくなったと思う」「文章を読んでいてわからないことがあったら、生徒は自分で調べている」などの生徒の「聞くこと」「読むこと」の態度に関する質問それぞれ 5 項目、「同じことの説明を何度も生徒から求められることがある」「文章を読んで、内容を要約することができる」などの生徒の「聞く」「読む」能力に関する質問それぞれ 6 項目、「生徒の様子を見て、『聞くこと』の指導は重要だと思う」などの「聞くこと」の学習に対する考えに関する質問 3 項目について、4 件法で回答を求めた。

(4) 結果（ア～ウ：高校生 エ：教師）

ア 「聞くこと」については、望ましい態度は意識しているが実際に聞くときにはそうした態度はとれておらず、自分の「聞く」態度や能力についての的確に把握ができていないと推測される。（図 1・図 2）

イ 「読むこと」については、読みの経験から興味をもったことについて調べたり、読みを深めたりしようという態度が備わっておらず、自分の読む能力についても不十分であると感じている生徒が多い。（図 3・図 4）

ウ 「聞く」「読む」態度と能力の関係をみとみると、「聞くこと」「読むこと」に対して積極的な態度で臨んでいる生徒は、「聞く」「読む」能力も身に付いていると自覚している。「聞くこと」「読むこと」の経験と能力の関係では、人に話をじっくり聞いてもらう経験を多くしている生徒は「聞く」能力があると認識しており、文章を読むときに表現や文の組み立てについて新たに気付く経験をしている生徒は、「読む」能力があると認識している。

エ 生徒の「聞く」態度や能力については、話を集中して聞けず、「聞くこと」の大切さの認

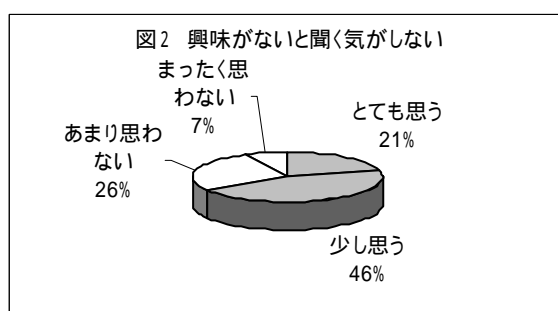
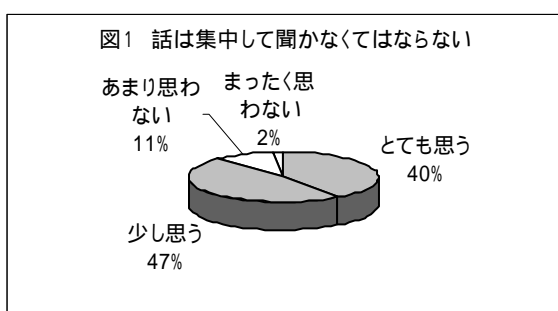
識も不十分であり、生徒に連絡事項が伝わらないなどの問題も起こりがちであると感じている。また「読む」態度や能力については、興味のない文章は読まないという生徒が多く、文章を読み深めていこうとする意欲が不足していると感じている。(図5・図6)

(5) 考察

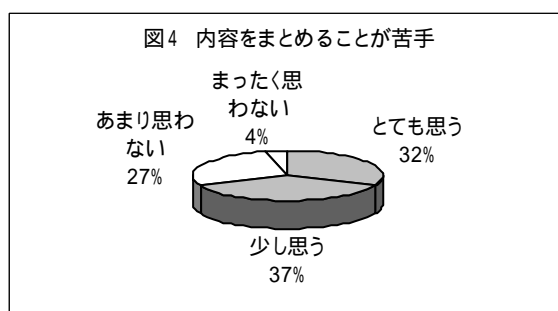
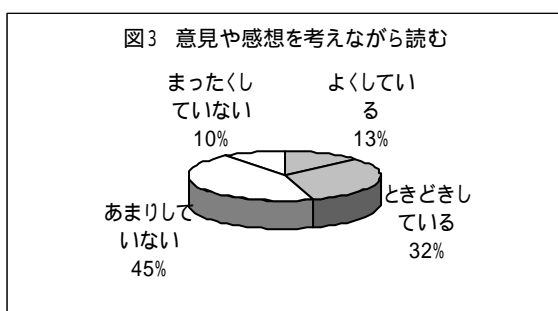
以上の調査結果から、生徒たちは日常の経験を通して「聞くこと」「読むこと」の大切さについて意識はしているが、実際の「聞くこと」「読むこと」の態度になるとその経験が反映されず、能力も十分発揮されていない現状がうかがわれる。また、「聞くこと」「読むこと」は大切だと思っていながら、実際に「聞く」「読む」際には話を聞き流したり、興味のない文章は読まなかったりしているという実態から、「聞く」「読む」姿勢や態度についての認識が生徒には希薄であると考えられる。「聞くこと」「読むこと」の重要性についてもう一度確認し、主体的に「聞く」「読む」活動を行う中で自分の意見を構築し、発信していくことが求められる。

また、このような生徒の指導にあたっている教師は、生徒の「聞く」「読む」態度や能力に対して課題を強く感じている。課程や学科を問わず、生徒の「聞く」「読む」態度や能力の不足が今、学校における大きな課題となっており、生徒にその力を身に付けてさせることが国語教育に求められている。

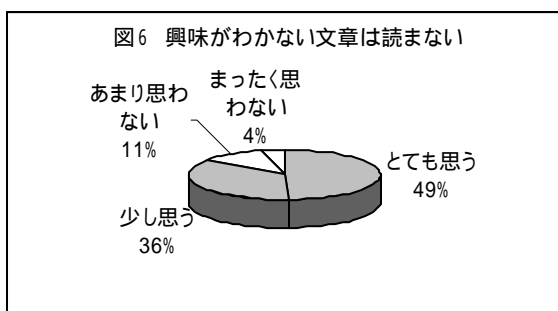
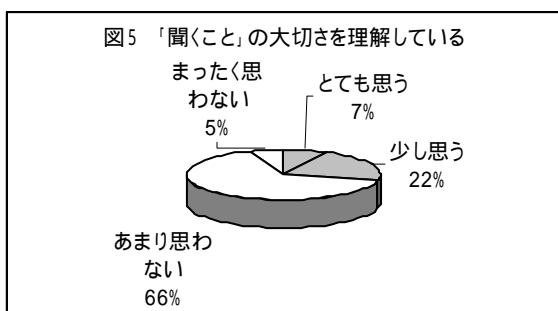
生徒の聞く態度についての調査結果



生徒の読む態度についての調査結果



教師から見た高校生の実態についての調査結果



2 学習活動の工夫

(1) 「聞くこと」の指導

「聞くこと」の指導は、「話すこと・聞くこと」という国語科の領域の指導の一部分である。したがって、本来は「話すこと・聞くこと」を一体として指導すべきではあるが、今回は特に「聞くこと」の重要性に焦点を当てて、研究を行った。指導を行う上で、聞く力の向上が話す力の向上につながることを、学習活動を通じて生徒に実感・理解させるよう意識した。その前提で、「聞くこと」の具体的な指導について、次の3つの段階を考え指導した。この段階的な指導によって、主体的に聞こうとする態度が身に付くと考えた。

(第1段階)「聞くこと」の重要性を意識する。

最初に、正確な聞き取りを行うことは必ずしも容易ではなく、それを可能にするのは主体的に聞く態度の繰り返しによる定着であることを生徒に実感させる必要がある。そこで、音声情報のみに基づいて伝達された内容を正確に受け止め、絵や図で再現する活動を行うこととする。

(第2段階)「聞くこと」の練習をし、聞く能力を育成する。

次に、聞く能力の育成を図る。ここでは、情報を正確に聞き取り、その内容を整理し、それに対する自分の考えをもつ、という学習過程の工夫をする。そのためには、話の意図や重要なポイントを聞き取って整理する、という手順や要領を体得することが必要となる。その指導の手だてとして、ワークシートを用いて行うこととする。

(第3段階)他者との意見交換をする。

物語の朗読等を聞き取るだけでは、「話すこと・聞くこと」の領域の活動としては、不十分である。そこで、評論等で扱われている内容について、課題意識を明確にし、第三者の意見をインタビュー形式で聞き取るという学習を設定する。インタビューした内容を整理し、話し手の考えを確認していくなかで、前段階で学んだ「聞くこと」の能力が、より実践的に活用されることとなる。インタビューした内容を、教室に戻って発表し合うことにより、自らの考えをさらに深めることができると考えた。

以上の段階の指導を通して、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域の力が有機的に結ばれ、「受け入れて発信する力」が身に付くと考えた。

(2) 「読むこと」の指導

高等学校学習指導要領(第2章、第1節、第2款の第3「国語総合」の2「内容」)では、「読むこと」の指導内容がアからエまでに分けて示されている。そのうち、今回は主として「ア 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約したりすること。」に力点を置いた。漠然とした読み方になりがちな現状にあまり問題を感じていない生徒の意識を改め、筆者の意図を読み取ることを意識し、文章に対して主体的に取り組む態度を育成することをねらいとした。「読むこと」の具体的な指導については、次の3つの段階を考え指導した。この指導によって、主体的に読む態度や的確に読み取る力が身に付くであろうと考えた。

(第1段階)複数教材の「比べ読み」を行う。

同一の主題を扱った複数の評論文を読み比べ、互いの共通点と相違点とを見いだす。この作業を行うためには「なんとなく概略が理解できた」といった表面的な読みでは不十分であり、細部まで読み取ったり、筆者が何に(どこに)力点を置いて論を展開しているかを意識しながら

ら読む、といった作業が必要となる。なお「比べ読み」の効果については、文化審議会答申（平成16年2月3日）においても、「授業の中で『比べ読み』や『ブックトーク』などの読書活動を取り入れると、子どもたちが本を好きになることもある。」という形で言及されており、高校生に対しても効果的な指導であると考えられる。

（第2段階）自他の読みについて意見交流を行い読みを深める。

前段階で整理した重要ポイントについて発表し合い、互いの意見を参考にして自分の読みを見直す。これによって自らの誤読を発見したり、より精度の高い読み方に接する場面も期待できる。自分なりに読んだ結論をもち寄って意見交換することにより、自分の読みの過程と他者のそれとの比較が容易になり、自らの読みの改善にもつながると考えられる。

（第3段階）教材の主題に関する自分の意見をまとめる。

第1段階前と第2段階後に、教材の主題についての自身の意見や立場を書く。2種類の作文を自ら比較すると、「比べ読み」や「各自の読みについて意見を交流させること」（以下「読みの交流」という）によって筆者の主張を客観的にとらえ、それを基に自分の考えを深められたことが確認される。このことは、今後の「読み」の活動に対する動機付けともなる。

以上の各段階の指導を通して、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域の力が有機的に結ばれ、「受け入れて発信する力」が身に付くことになる。

3 指導と評価の工夫

(1) 主体的に「聞くこと」・「読むこと」

「聞く」・「読む」活動を行うに際しては、「漠然と聞いたり読んだりしているだけでは、真の理解にはつながらない」という自覚が必要とされる。情報に対して主体的な姿勢で臨むことが重要である。「主体的な姿勢で臨む」とは、情報中のポイントや送り手の意図を的確に聞き取る（読み取る）という自覚的な意志をもち続けて情報に接するということであり、その結果として聞き取った（読み取った）内容を再び整理できるようにすることである。

主体的な姿勢で臨めたかどうかを評価するためには、情報中のポイントや再整理した内容等を口頭や作文で発表する活動が、有効であると考えられる。すなわち、受信した情報を再発信するわけである。また、発表するということが自体が「聞く」・「読む」ことの目的意識を喚起し、動機付けとなる、という効果も見逃せない。より良い発信のためにはより良い受信が必要であるという意識も、この一連の活動のサイクルの中で高められるわけである。

(2) 個に応じた指導

「個に応じた指導」については、「小学校、中学校、高等学校の学習指導要領の一部改正等について」（平成15年12月26日）の中でも取り上げられる等、その一層の充実が、求められている。このことを踏まえて、今回は以下の工夫を盛り込むこととする。

ア ワークシートの活用等に際して、Aの（十分満足できると判断される）生徒向けの発展的な問題や、Cの（努力を要すると判断される）生徒を念頭に置いた補充的な問題もあわせて用意し、生徒が各自の理解に応じて課題に取り組めるようにする。

イ 指導案の作成に当たっては、他の生徒が各自の課題に取り組んでいる間に、Cの生徒に対して、そこまでの内容を繰り返し説明する等の指導を行うよう、留意する。

特にCの生徒に関しては、すべての評価場面において手だてを講じるよう、留意した。

目 標 高等学校学習指導要領 国語より

様々な文章を読んで、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり、深めたりする。
話をよく聞き取る能力や態度を身に付けさせる。
目的や場に応じて、効果的に話したり、聞き取ったりする。

生徒の実態

高等学校教育課程実施状況調査(平成14年度)より

- ・文章の内容を把握する力はほぼ身に付いているが、筆者の考えの進め方や表現意図をとらえる力、文章の主題を踏まえて自分の考えを深め、まとめる力は不足している。
- ・話の進め方をとらえ、自分の意見を筋道立てて述べる力は十分身に付いていない。

本研究における実態調査より

- ・「聞くこと」の大切さを学ぶ機会はあまりないと感じている。
- ・文章を読んで興味・関心はもつが発展的な学習につながることは少ない。漢字・語いの理解が定着していない。

教師の願い

- ・相手の立場や考えを尊重して、自らの考えを的確に相手に伝える力を育てたい。
- ・相手の考えを理解し、問題意識をもって考え、相互理解を深めようとする力を育てたい。

社会が求める国語の力(文化審議会答申より)

- ・話の要旨を的確に把握して、内容を理解できる。
- ・話し手の言外の思いや真意を感じ取ることもできる。
- ・場面に応じて最後まで集中して聞くことができる。
- ・論理的、説明的文章において、的確に論理を読み取ることができる。

研究主題(本研究において育成したい国語力)

伝え合う力の基礎となる言語の受け手の能力を高める指導の在り方

聞くこと

仮説 聞くことの重要性を意識する活動から、聞き取った内容を受け止め考えを深める活動へと段階的に行っていけば、伝え合う力の基礎となる主体的に聞く態度や的確に聞き取る能力が身に付くであろう。

読むこと

仮説 比べ読みや自他の読みについての意見交流など、読みを深める活動を段階的に行っていけば、伝え合う力の基礎となる主体的に読む態度や的確に読み取る能力が身に付くであろう。

学習活動の工夫

- ・「聞く」「読む」力を高めることは「話す」「書く」力を高めることになるということを理解させる。
- ・「聞くこと」「読むこと」を有機的に関連させ、「話す・聞く、書く、読む」を関連させた活動にする。
- ・相手の考えを理解できることの喜び、大切さを感じさせる。
- ・同じ題材を取り扱った複数の教材を比べながら読む。

学習教材選定の視点 聞くこと・読むことの活動にふさわしい教材の選定

生徒の日常生活、将来の生活に還元できる内容であること。
テーマや問題点がわかりやすく、生徒がイメージしやすいものであること。
教材から集める情報が多く、整理した情報を基に報告、記録、発表しやすい内容であること。

評価の規準

- ・聞くことの重要性を理解し、積極的に聞いている。
- ・相手の意見を理解し、意見交換している。
- ・コミュニケーションのマナーが身に付いている。
- ・人の話を聞くための要点を理解している。

評価の規準

- ・文章を的確に読み取ろうとしている。
- ・根拠を考え文章を要約できる。
- ・同一テーマの二作品を読み比べ考えを深めている。
- ・文章の組み立て、要旨のとらえ方を理解している。

「聞くこと」の指導の実際

聞くことの重要性を意識する活動から、聞き取った内容を受け止め考えを深める活動へと段階的に行っていくことにより、主体的に聞く態度や的確に聞き取る能力を育てる指導の工夫

1 単元設定の理由

本研究における実態調査で、現在の高校生は他者とコミュニケーションを行う手段に恵まれていながら、その方法は携帯メールや電子メールなどによる一方的な意思伝達になりがちである様子がうかがえた。さらに「聞くこと」の重要性については意識しているものの、実際には話を集中して聞けなかったり、聞き流してしまったりというように、聞く態度には反映されておらず、自らの「聞く」能力についても「不足している」と認識している生徒が多いことが明らかになった。この「聞く」能力の不足、すなわち「受け止める」能力の不足がコミュニケーション能力の不足の大きな要因なのではないかと考え、本分科会では「聞く」ことに焦点を当てて主体的に聞こうとする態度と的確に聞き取る能力の育成を目指した。

本単元では、導入において、与えられた情報をもとに絵や図形を完成させるゲームや『イソップ物語』の聞き取りを行うことによって、情報を正確に聞き取ることの難しさや大切さを改めて実感させ、「聞くことの重要性」を認識させる。続いて『イソップ物語』に示されている教訓について、教室内の友人の話聞き、意見を交換するという活動を通して、他者の意見を受け止める指導を行う。さらに、遠藤周作の『勇気ある言葉』という随想文を読み、それを基に自らが大人にインタビューしてみたいテーマを設定し、教室の外で身近な成人にインタビューするという活動を通して、「聞くこと」の実践を行っていく。また、相手にインタビューの趣旨を説明したり回答に重ねて質問を行うなどの活動や、インタビュー内容の発表活動などを通して、言葉の受信のみにとどまらず、発信の学習につなげていくこともねらいとした。

2 教材選定の理由

聞き取りの教材として取り上げた『イソップ物語』は、一度の聞き取りで内容が分かりやすい物語であり、登場する動物たちの行動がどのような教訓に結びついているのか多角的に考えることができる物語である。すなわち集中して聞く練習を行ったり、そこから得た教訓について意見交換をするのにふさわしい教材であると考えた。また、インタビューのテーマ設定の素材である遠藤周作の『勇気ある言葉』は、生徒にとって題材が身近であり、テーマや問題点が分かりやすく生徒のイメージが膨らみやすいものである、ということも考慮して取り上げた。この随想文を用いることによって、生徒自らが書かれている内容に興味・関心をもち、自らの意見をもった上でインタビューし、他者と自分の考え方の違いを認識するという主体的な学習活動となることをねらいとした。

3 指導の工夫

- (1) 導入をゲーム形式とし、先入観をもたずに聞くことに集中させ、「聞くこと」の難しさ、大切さ、楽しさを味わわせる。
- (2) メモを取ることやメモを基に話をするを苦手とする生徒に対して、事前にワークシートによって型を示すことにより、振り返り学習ができるようにする。
- (3) 「聞く」活動についての意見交換により、自分とは異なる意見の存在を意識させ、それらを受け止める体験ができるようにする。

- (4) 生徒自身にインタビューをさせることによって、人に分かるように説明し、相手の意見を聞き取ることの難しさや楽しさを実感させる。
- (5) インタビュー結果の発表を聞くことにより、これまで学んだ「聞き上手になるための方法」を実践させ、的確に聞く能力を定着させる。

4 評価の規準

- (1) 人の話を的確に聞くことの重要性を理解し、積極的に聞いている。【関心・意欲・態度】
- (2) 自分と他者の考え方の違いを認識し、意見を交換している。【話す・聞く能力】
- (3) インタビューのマナーや相手の意見の引き出し方を身に付けている。【話す・聞く能力】
- (4) 人の話を的確に聞くために気を付けなければならないことを理解している。【知識・理解】

5 単元の指導計画

- (1) 単元名 「情報の中身や話の意図を主体的に聞き取ろう」(「国語総合」)
- (2) 単元の目標

ア 人の話を積極的に、かつ的確に聞く態度をもつ。

イ 人の話を的確に聞き、自分の見解と照らし合わせて、意見を交換できるようにする。

ウ 人とのコミュニケーションのマナーやスキルを学び、その楽しさや大切さを実感し、人の話を聞く重要性について認識を深める。

エ 人の話を的確に聞くための能力が、どのようなものかを理解し身に付ける。

(3) 学習指導計画の概要

時	生徒の学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
1	<p>・ゲーム を行いワークシート を完成させる。</p> <p>ゲーム のルール ア．説明者以外に一切の会話・メモ取りを禁止する。 イ．体の動き等を使わず、口頭による説明だけで情報を与える。 ウ．説明者に対しては質問や聞き返しをしない。 エ．他者を気にせず、自分が聞いたとおりに絵を描く。</p> <p>ゲーム のルール ア．体の動き等を使わず、口頭による説明だけで情報を与える。 イ．説明者に対しては、口頭による質問だけを認める。 ウ．他者を気にせず、自分が聞いたとおりに図をかく。</p>	<p>事前に、ゲームのルールについてきちんと説明する。</p> <p>今後の学習課題を提示する。</p>	<p>積極的に参加している。 【関心・意欲・態度】 (机間指導で確認) 人の話を的確に聞くことの重要性を理解している。 【知識・理解】 (ワークシートの確認) [Cの生徒への手立て] メモの取り方を理解させる。</p>
2	<p>・平易な物語を聞いて、その内容をワークシートにまとめる。</p> <p>・的確に「聞く」ための要点を、ワークシートに従ってまとめる。</p>	<p>多元的な解釈をもつ教材を使う。ここでは『イソップ物語』の「農夫と鷲」を使用する。</p> <p>ワークシート から において、生徒自身が気が付いたことを確認しながら、作業をさせる。</p>	<p>意欲的に聞いている。 【関心・意欲・態度】 (机間指導) 的確に「聞く」ための要点を理解している。 【知識・理解】 (ワークシートの確認) [Cの生徒への手立て] 要点を教師が復唱する。</p>

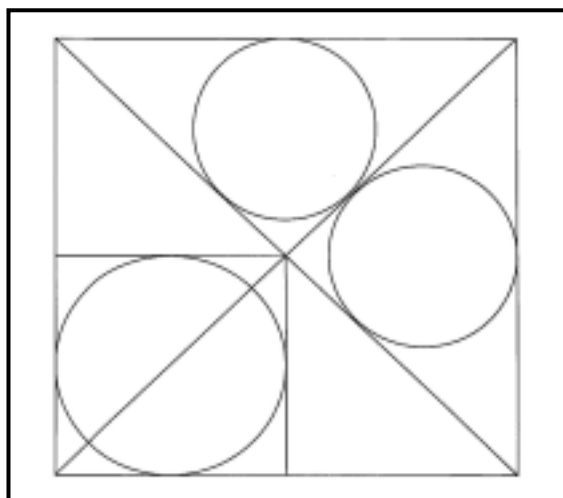
<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の授業を踏まえた上で、新たな物語を聞き、ワークシート に内容などをまとめる。 ・ワークシート にまとめた内容を発表する。また発表を聞いて、自分のまとめ方との違いを確認する。 ・発表後、その物語のテーマを自分で導き出す。 	<p>前時とは違う内容の物語を用意する。ここでは『イソップ物語』の「獅子とうさぎ」を使用する。</p> <p>発表がスムーズに行くように注意する。また人と違うまとめ方があることに気付かせる。</p> <p>自分の力でテーマを導き出せるようにアドバイスする。</p>	<p>ワークシート に新たな物語の内容をまとめている。</p> <p>【話す・聞く能力】 (ワークシートの確認) 他人の考え方に興味をもち、的確に聞き取りようとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 (聞く態度を見る) 〔Cの生徒への手立て〕 ワークシート を参考にさせ、人の意見を聞くときの態度・方法を確認させる。 〔Aの生徒への手立て〕 同じ話題なのに、他人の意見と違う見解があること理由について考えさせる。</p>
<p>4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・随想文を読んで、その内容をワークシート にまとめる。 ・まとめた内容から、その文章のテーマを導き出す。 ・ワークシート にある、「考えよう」の項目について、自分の意見を導き出す。 	<p>随想文の教材として、遠藤周作の『勇氣ある言葉』を使用する。また生徒の様々な状況に対応できるワークシートを用意する。</p> <p>同じような経験をしたことがないか聞く。</p> <p>他の生徒との相談はせず、自分の意見を大事にすることを伝える。</p>	<p>内容を的確にまとめ、理解している。</p> <p>【知識・理解】 (ワークシートの確認) 〔Cの生徒への手立て〕 ワークシートの言葉と文章を重ね合わせて読むことを指示する。 自分の意見としてのテーマを導き出している。</p> <p>【関心・意欲・態度】 (発言とワークシートの確認) 〔Cの生徒への手立て〕 テーマを自分で導き出せない生徒にはテーマ例を提示し、身近な例を考えさせる。 〔Aの生徒への手立て〕 テーマを導き出せている生徒には、他にも考えられそうなテーマを探させ、その根拠を考えさせる。</p>

5	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の内容を振り返り、他の生徒と意見交換をする。その上でインタビューに使う統一テーマを設定する。 ・インタビュー時のマナーや質問事項について、ワークシート にまとめる。 	<p>机間指導をしながら、意見交換が的確になされているか確認する。</p> <p>テーマ例についてはあらかじめいくつか準備しておく。</p> <p>身近な成人を対象に、インタビューをすることを、前もって指示しておく。</p>	<p>他者の意見を聞きながら、的確に意見交換ができています。</p> <p>【話す・聞く能力】 (発言や聞く態度を見る) 〔Cの生徒への手立て〕 メモの取り方を再確認する。また他の生徒の意見に対しての賛否を聞く。</p> <p>インタビューの方法やマナーを理解している。</p> <p>【知識・理解】 (ワークシートの確認)</p>
課外	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート を基にして、家族や知人にインタビューをしてくる。 ・インタビューの結果をワークシート にまとめる。 	<p>インタビュー中に疑問点が出たら、相手と意見交換をしてくることを事前に伝える。</p>	<p>インタビューした相手の話を的確に聞き取っている。</p> <p>【話す・聞く能力】 (ワークシートの確認)</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューの内容を発表し、また他者の発表を聞いて、共通点や相違点についてワークシート にまとめる。また、それをもとに意見交換をする。 ・インタビューの報告書(ワークシート)をまとめて提出する。 ・発表を聞いた印象や感想についてワークシート にまとめ、自己評価を記入する。 	<p>発表を聞きながら、その内容をまとめさせる。</p> <p>他の生徒のインタビューの結果との違いを比較させてみる。</p> <p>単元の目標が達成できているかどうか、生徒に自己評価させる。</p>	<p>他の生徒の報告内容を的確に聞き取っている。</p> <p>【話す・聞く能力】 (聞く態度やワークシートを確認)</p> <p>他の生徒の報告を基に、考えを深めている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 (ワークシートの確認) 〔Cの生徒への手立て〕 他の生徒の発表の疑問点について、質問する時間を作る。</p> <p>「聞くこと」について的確に自己評価をしようとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 (ワークシートの確認)</p>

6 生徒の学習活動

(1) 学習過程の工夫

1. ワークシートを縦置きにして、右上にりんごの木を描いてください。大きさはその紙の1/4程度です。
2. その木の下から左に向かって川を描いてください。
3. 川の端に大きな岩を描いてください。
4. 川岸に煙突のある家を描いてください。
5. その家の上に太陽を描いてください。
6. 家の反対岸に車を描いてください。



<ゲーム の課題例>

<ゲーム の課題例>

1 時間目は、「聞く」練習の第1段階として2つのゲームを実施した。ゲームでは一切の聞き返しや質問を受け付けず、教師が口頭によってのみ発する情報を基に絵を描いた。ゲームは説明を生徒が行い、挙手による聞き返しや質問を認め、簡単な図形を描いた。

2 時間目は、『イソップ物語』の聞き取りを行った。教師が話す物語の内容を聞きながら要点をワークシートに記入する。一言も聞きもらすまいと、生徒は真剣な表情で耳を傾けていた。さらに、ワークシートで「聞き上手になるには」という聞き方のポイントを学習させた。

3 時間目は、前時に引き続き『イソップ物語』の聞き取りを行ったが、本時のワークシートは各自がメモを取る形式になっている。初めはメモの取り方に戸惑う生徒もいたので、ワークシートで学習したことを思い出させ、メモ取りのポイントを説明し、スムーズな作業となるよう支援した。教訓については、各自で考えた後、生徒同士で意見交換をさせた。

4 時間目は、遠藤周作の『勇氣ある言葉』の聞き取りを行った。白紙を配布してメモを取りながら聞かせた。聞き取り後に本文を配布し、ワークシートで内容読解を行った。本文の話題が生徒にとって身近なものであったため、興味をもち取り組んでいた。

5 時間目は、『勇氣ある言葉』から共通テーマ「公共のマナーについて」を設定し、インタビュー方法の指導や質問紙の作成を行った。各自で質問項目を考えるが、中には「はい・いいえ」

だけの回答に終わってしまうような質問のみを羅列する生徒もいる。そういう生徒には、「聞き上手になるには」と題したワークシートを用いて、相手の意見を聞き出す聞き方の要点を指導した。

6 時間目は、インタビューしてきた内容の発表会を行った。各クラス3名ほど選出し、前に出て発表させた。聞き手の生徒たちはワークシートにメモを取りながら話し手に注目して聞いていた。教師の働きかけがなくても、発表者に自主的に聞き返しや質問をする様子が見られた。



発表を聞いてメモを取る生徒

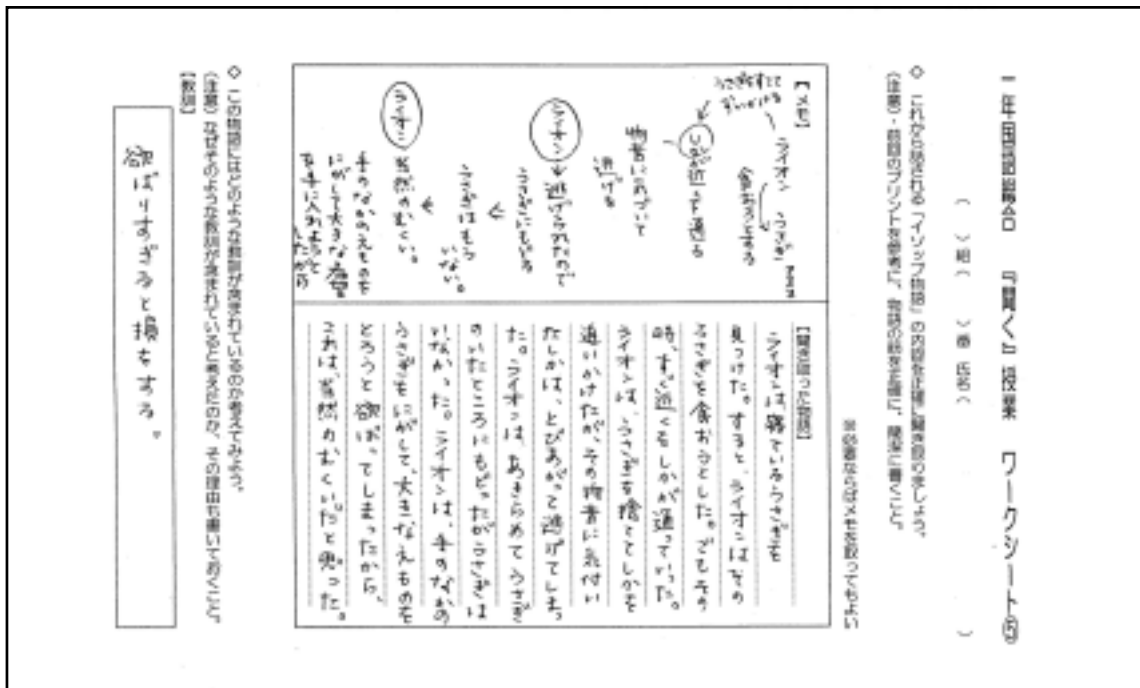
(2) 生徒の変容

ア 関心・意欲・態度について

1時間目の始めは、聞き取りゲームの意図が理解できず戸惑う生徒もいたが、ゲーム感覚の活動のため楽しそうに取り組んでいた。授業終了時には全員が「聞く」力を試したゲームであることに気付いていた。

2、3時間目の『イソップ物語』の聞き取りの段階では、生徒の表情から意欲的に「聞こう」としている様子が感じられた。なかにはメモを取る際に一字一句もらさず書き取ろうとして、かえって要点がつかめない生徒がいたので、ワークシート を用いてメモ取りのポイントを助言した。その結果、流れに沿ってキーワードを並べるメモの取り方ができるようになった。また、話し手の話しやすい雰囲気作りに気を配る生徒も出てきた。国語の授業外でも生徒同士で「聞く」態度を注意し合う姿が見られるようになった。また、物語から読み取れる教訓について、2～3名で意見交換をさせたところ、同じ物語から違う読み取りが出てくることに関心を抱く生徒がいた。そのような生徒のワークシート の発展問題には、「物語のどこに着眼するかによって違いが生まれる」「その人の体験が物語の読み取りに影響を与える」などの意見が書かれていて、他の生徒にも刺激になっていた。

4時間目からはインタビューの指導に入った。テーマが「公共のマナー」という身近なものであったため、関心をもって取り組む生徒が多かった。質問事項についてはできるだけ多く記入するように指示したが、3項目程度の生徒から10項目以上考えた生徒まで様々であった。インタビューを通して大人の意見を聞いたことを良かったと感じている生徒は158名中105名であり、世代や立場によって考え方が違うということに興味をもった生徒もいた。また、発表会の場で自主的に聞き返しや質問をする生徒も現れ、段階を経た指導の成果が感じられた。



第3時ワークシート (メモをもとにした聞き取り)

イ 聞く能力について

生徒は「聞く」ことに重点を置いた授業を受けた経験が必ずしも十分とはいえない。今回の授業は作業が多く、また、人との交流の場面が多く含まれていたため「楽しい」と感じた生徒が158名中121名(以下分母は同じ)いた。そして、本授業の目標であった「聞く」ことの大切さを感じた生徒は147名、「聞く」ことの難しさを実感した生徒は134名であった。インタビューをした際「はい・いいえ」のみで会話が終了してしまったと述べる生徒の中には、他の生徒のワークシートと照らし合わせて「相手からより多くの情報を得るためには聞き方に工夫が必要だ」と気付いた生徒もいる。その場で臨機応変な質問方法ができた生徒のワークシートは、後でメモを書き足した形跡がはっきりと残っている。このインタビューをきっかけとして違う世代の人と話ができたことに満足している生徒が105名いた。また大人の意見を聞くことによって自分の考えを深めた生徒もいた。生徒の感想の中には、「人の話をきちんと聞くことが相手を理解することにつながる」「違う意見を聞くことで考え方の幅が広がった」といったものもあり、本授業の成果を感じた。

ウ 知識理解について

メモの取り方については、初めは何を書き取ればいいのか悩んでいた生徒も授業者からの助言により、徐々に話の流れを押さえながらキーワードを並べていけるようになった。空欄補充からメモ取りへと段階を踏んだ指導をした結果、『勇氣ある言葉』の聞き取りを行った際には9割の生徒は話の流れに沿ったメモ取りができるようになった。また、聞き上手のポイントを指導した成果が学校生活全般にも現われたことは、生徒自身の感想やHR担任からの報告により確認できた。発表者のインタビュー報告を聞いたことで、自らの質問方法や態度を振り返り反省する生徒や「もっと色々な意見を聞いてみたい」と述べる生徒が出てきた。

ワークシート(インタビューメモ)あらかじめ用意した質問(上段)と相手の答えのメモ(下段)の中で質問順を変更するなどの工夫が見られる

順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	備考	
質問	「高校生の数多の...」	「インクルーシブ...」	「まず、最近の...」	「電車の中で...」	「仲直りした時...」	「私は、高校...」	「時々、...」	「最近の...」	「電車の中で...」	「そのこと...」	「電車の中で...」	
回答	「はい。」	「私も、...」	「私も、...」	「私も、...」	「私も、...」	「私も、...」	「私も、...」	「私も、...」	「私も、...」	「私も、...」	「私も、...」	

7 成果と課題

(1) 学習の成果

「聞くこと」の検証授業を通して段階的によいような力が生徒に身に付いたのかを分析した。

まず、単純なゲームを行うことで、「聞くこと」に対して前向きな興味がわくとともに、「聞く」という行為がコミュニケーションを行う上で、大切な要素となっていることに気が付いた。今まで「聞く」という活動にポイントを絞った授業の経験が少ないせいか、生徒は「聞くこと」に興味を抱いたようだった。聞く能力を真剣に

身に付けたいと感じている生徒が多く、授業の流れは妥当であった。生徒は自分の記入したものと正解を比較しながら、聞く能力が不足していることを次第に自覚するようになった。

聞き取るゲームから、インタビューへと段階を重ねるごとに、「聞く」だけでなく「話す」という活動が増え、また「よく聞き取る」ためにはメモという「書く」活動が必要になっていることにも生徒は気が付いた。様々な言語活動の中で、一方的な「話す」活動には慣れていてのもの、「聞く」という受容力が欠けていることにも気が付いた。

ここで生徒は、「聞く」という意識や態度について改めて認識し、いかに今までその方法や行動が身に付いていなかったかを自覚できた。

(2) 今後の課題

課題として以下の3項目を挙げる。

導入のゲーム実施において、集中力が欠けないようスムーズに展開させていくには、指導者の工夫が必要である。淡々とするのではなく、生徒の興味を喚起するような導入の工夫があると、その後の授業の展開の幅が広がっていくのではないかと考えた。

教材選定においては、もう少しテーマに対する賛否がはっきり分かれるようなものだと



グループでインタビュー結果を発表しあう生徒

グループ討議が成立しやすい。今回は多面的な内容の教材をあえて取り扱ったが、「話す・聞く」という言語活動の基本の流れをつかむには、賛否がはっきり分かれるものの方が取り扱いやすいと考えた。

インタビューの活動が、単純な聞き取りになりがちであり、疑問や意見などをその場で解明するような、一歩踏み込んだ活動が少なかった。インタビューの趣旨や目的意識を時間をかけて指導することや、教室内でグループインタビューなどを事前指導することも必要であった。

氏名	感想メモ
山田 太郎	今回の授業は、聞くことの大切さを実感した。友達の話に集中して聴くことができた。また、自分の話を聞かせることも大切だと感じた。
佐藤 花子	インタビューを通して、相手の話をよく聴くことが大切だとわかった。自分の話を聞かせることも大切だと感じた。
鈴木 健太	今回の授業は、聞くことの大切さを実感した。友達の話に集中して聴くことができた。また、自分の話を聞かせることも大切だと感じた。
田中 美咲	インタビューを通して、相手の話をよく聴くことが大切だとわかった。自分の話を聞かせることも大切だと感じた。
高橋 誠也	今回の授業は、聞くことの大切さを実感した。友達の話に集中して聴くことができた。また、自分の話を聞かせることも大切だと感じた。

ワークシート 友人の発表を聞いての感想メモ

「読むこと」の指導の実際

比べ読みや自他の読みについての意見交流など、読みを深める活動を段階的に行うことにより、主体的に読む態度や的確に読み取る能力を育てる指導の工夫

1 単元設定の理由

本研究における実態調査から、現在の高校生は、文章を読んで、そこから何かを考えようとするものはあるものの、読む際に内容を深く理解しようという意識が低く、要旨を把握することを不得意としている者が多いという実態が浮かびあがった。実際、日ごろの授業を振り返っても、自分自身で内容を理解するのではなく、教師の説明によって内容を把握しようという受身の姿勢で臨んでいる生徒が少なくないことが分かる。自分で的確に要旨を把握する力を身に付けなければ、読んだ文章から何かを考えようとしても、そこに新たな価値を見いだしたり、自分の世界を広げたりという経験をもつことも困難になってくる。就職や進学の際に作文指導をしていて痛切に感じるのは、そのテーマに関する自己の意見が表面的になりがちだということである。そこで今回の研究では、自己の考えを深めることにもつながる、「主体的に内容を読み取ろうとする態度」や、「的確に内容を把握する力」を身に付けさせることを目指した。

具体的な学習活動としては、まず、要旨把握の練習段階として、文章のポイントを押さえていく形のワークシートを利用して自分自身で評論文の要旨をまとめるという作業から入り、それを他者のものと比較することを通して、よりの確な読みに近づけていく過程を体験させるとともに、文章を主体的に読み解いていくことの大切さを実感させようと考えた。次に同一のテーマで書かれた主張の異なる2つの評論を読み比べ、内容の共通点・相違点に着目しながら、的確に内容を把握するとともに、同一テーマに対しても異なった見方、意見、論の展開の仕方があることを理解させようと考えた。さらに、そのテーマに関する作文を比べ読みを行う前と行った後にそれぞれ書かせ、人の意見を的確に読み取ることを通して自己の考えも深まっていくことを実感できるようにすることもねらいとした。

2 教材選定の理由

要旨を把握するための練習教材として、安部公房の評論『日常性の壁』を取り上げた。これは、文章が短く、比較的文章の構成が明快なので、生徒たちが抵抗感なく要旨をまとめる作業に取り組みめるのではないかと考えたためである。比べ読みの教材としては2つの評論、黒崎政男の『ネットが崩す公私の境』と後藤和彦の『汎メディアの時代』を取り上げた。これらは、どちらも文章が短く、また、同一のテーマで書かれながら主張が異なっているので、文章を比較しやすいこと、さらに、そのテーマも生徒たちにとって身近である「インターネットの受信・発信」に関するものなので、自分自身の考えももちやすく、比べ読みをすることで、自分の考えがどのように深まったかを確認しやすいことで選定した。

3 指導の工夫

- (1) ワークシートを利用して、主体的に要旨をまとめられるようにする。
- (2) 自分でまとめた要旨を他者のものと根拠を挙げながら比べることによって、よりの確な読みができるようにするとともに、主体的に読むことの大切さも実感できるようにする。
- (3) 2種類の同一テーマの評論を読み比べ、共通点、相違点をとらえながら的確に内容を把握させるとともに、ものの見方、論の展開の仕方は様々であることに気付かせるようにする。

(4) 比べ読みの前と後にそのテーマについての作文を書かせ、自己の考えが深まったことを確認できるようにする。

(5) 読み取った内容について、グループで話し合ったり、比べ読みの前後に自分の意見をまとめたりするなど、「話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと」を組み合わせた活動を通して、読みを深められるようにする。

4 評価の規準

(1) 文章を主体的、かつ、的確に読み取ろうとしている。【関心・意欲・態度】

(2) 根拠を考えながら要旨を把握している。【読む能力】

(3) 同一テーマの二つの評論を読み比べて、自己の考え方を広げたり、深めたりしている。

【読む能力】

(4) 評論文の文章の組み立て、要旨のとらえ方を理解している。【知識・理解】

5 単元の指導計画

(1) 単元名 「比べ読みや読みの交流を通して読みを深めよう」(「国語総合」)

(2) 単元の目標

ア 文章を主体的に、かつ、的確に読み取ろうとする態度を身に付ける。

イ 他者と意見交換したり、二つの同一テーマの文章を読み比べたりして、読みを深めながら、要旨を的確に把握する。

ウ 他者の意見を基に、自己の立場を定め、考えを広げたり、深めたりする。

エ 評論文の文章の組み立てや、要旨のまとめ方を理解する。

(3) 学習活動の概要(6時間)

時	生徒の学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張は何なのかを考えながら音読(指名読み)する。 ・各自読み返しながら、要旨をまとめる形の「ワークシート(導入)」に記入する。 ・近くの席の者2、3人とワークシートを交換し、互いの内容を確認して、ワークシートに記入する。(提出) 	<p>読み方、語句の意味の確認をする。</p> <p>段落ごとに筆者の主張とそれを支える根拠にあたる部分を考えさせ、各段落のつながりを考えながら要旨をまとめさせる。</p> <p>次時、何人かの生徒にワークシートの内容を発表してもらうことを伝えておく。</p> <p>自分の読みが他者の読みとどう違うかを確認させる。</p> <p>最後にワークシートを提出させて、次時に紹介するものを選んでおく。</p>	<p>自分なりに叙述に即して内容を的確に読み取り、要旨をまとめようとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 (作業時の観察・ワークシートの確認) 〔この生徒への手だて〕 要旨の把握ができない生徒には、筆者の意見と、それを裏付けるための説明や例示部分の分け方を具体的に示し、キーワードを探させる。</p> <p>他者と自分の読み取りの違いを確認しようとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 (作業時の観察・ワークシートの確認)</p>

2	<ul style="list-style-type: none"> ・指名された生徒が、ワークシートに従って要旨と、その根拠を説明する。 ・文章の組み立て、要旨のとらえ方について、教師の説明を聞き、必要な生徒は要旨をまとめ直す。(提出) 	<p>説明が不十分な部分は適宜、助言をする。</p> <p>文章の構成を踏まえながら、要旨把握のポイントを指摘する。</p> <p>最初から要旨を正しく把握している生徒には、筆者の主張について考えたことをまとめさせる。</p>	<p>発表を聞きながら、要旨の根拠が何なのかを理解しようとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 (聞いているときの観察) 文章の組み立て、要旨のとらえ方について理解している。</p> <p>【知識・理解】 (ワークシートの確認) 〔Cの生徒への手だて〕 要旨のまとめができない生徒には要旨のとらえ方のポイントを確認させる。 〔Aの生徒への手だて〕 筆者の主張に対して考えたことをまとめる。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・これから読む教材のテーマ「インターネットを通じた発信と受信」について、自分の考えをまとめ、「比べ読み」ワークシートに記入する。(提出) ・上記テーマの教材二作品を筆者の主張を把握しながら音読(指名読み)する。 ・ワークシートの設問を読み文章を再度黙読しながらポイントとなる部分に傍線を引く。 	<p>そのテーマについて、自分がどのような考えをもっているかがわかる程度の簡単なものでよいことを指示する。</p> <p>読み方、語句の意味の確認をする。</p> <p>「発信」と「受信」に対する筆者の主張がよく表れている部分に傍線を引かせる。</p>	<p>テーマについて自分なりの考えをもとうとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 (ワークシートの確認) 〔Cの生徒への手だて〕 テーマについて自分の考えがまとめられない生徒には、身近な例を考えさせる。 それぞれの文章の筆者の主張を的確にとらえようとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 (作業時の観察)</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に線を引いた部分をもとに、筆者の主張とそれを支える根拠についてワークシート(設問、)にそれぞれまとめ。両作品の共通点と相違点を考え(設問)にまとめる。 ・設問 ~ を参考に、両作品の要旨をワークシート(設問)にまとめる。 ・ワークシートをグループで交換し、他者の意見を参考にしながら修正が必要な部分は修正する。(提出) 	<p>両作品の「発信」と「受信」について述べられている重要なことながら、それを支える根拠も挙げながらまとめさせる。</p> <p>両作品の共通点と差異点があるのかを考えさせながら、要旨をまとめさせる。</p> <p>次時、各設問についてグループの代表者に発表してもらうことを指示しておく。</p> <p>提出されたワークシートから内容が異なるものを選んでおく。</p>	<p>両作品の筆者の主張をそれを支える根拠を考えながら把握し、共通点と相違点も意識しながら要旨をまとめている。</p> <p>【読む能力】 (ワークシートの確認) 〔Cの生徒への手だて〕 筆者の主要な意見を把握できない生徒には、別のワークシートであらかじめ箇条書きにしてある筆者の意見の中から主要なものを選ばせる。 話し合いをもとに的確に内容を把握しようとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 (作業時の観察・ワークシートの確認)</p>

<p>5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指名されたグループの代表者がワークシートの設問、（筆者の主張とそれを支える根拠）について発表し、各々の発表について質疑応答を行い、正しく読み取れているかどうか確認する。 ・設問（両作品の共通点と相違点）についてグループの代表者が発表し、それについて質疑応答を行う。 ・設問（要旨）について、グループの代表者が発表する。 ・要旨について、修正が必要な者は修正をする。また修正が必要ない者は、発展問題のワークシートの設問に答える。 	<p>同一設問について、内容の異なるものをそれぞれ発表させる。 質疑応答を通じて筆者の意見を支える根拠を正しく理解させる。生徒同士で不足する部分は教師が補足説明をする。</p> <p>両作品の共通点・相違点を正しく把握させる。</p> <p>両作品の共通点・相違点を認識した上での要旨になっているか確認する。 最初から要旨を正しく把握している者には、発展問題として両作品から類推される、これからの「発信者」と「受信者」に求められるものについて考えさせる。</p>	<p>自分の読みを他者の読みと比べながら、より正確なものにしようとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 （発表・質疑応答時の観察）</p> <p>両作品の共通点・相違点を押さえながら要旨を的確に把握している。</p> <p>【読む能力】 （ワークシートの確認） 〔この生徒への手だて〕 すでに発表された共通点と相違点を再確認させ、要旨をまとめるためのヒントを与える。 〔Aの生徒への手だて〕 作品から類推されることを考えるという発展問題を与え、テーマについて、より深く考えさせるようにする。</p>
<p>6</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読み比べた文章から考えたことも参考に、再度同じテーマについて作文を書く。 ・本単元全体を終えての自己評価をし、評価シートに記入する。 	<p>第3時に書いた作文も合わせて読ませ、二作品を読んだことによってそのテーマに対する自己の考えが深まったかどうかを考えさせる。</p> <p>本単元開始前と現在とで変化した部分があるかないかを意識させる。</p>	<p>同一テーマの文章を読み比べ、複数の他者の意見を理解することによって自分の考え方を広げたり深めたりしている。</p> <p>【読む能力】 （作文の確認） 〔この生徒への手だて〕 作文が書けない生徒には二作品の内容について確認させ、気付いた点を考えさせる。</p> <p>本単元から自分に付いた力を的確に評価しようとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 （自己評価シートの確認）</p>

6 生徒の学習活動

(1) 学習過程の工夫

1 時間目は、評論文「日常性の壁」の要旨をまとめ、生徒2～3人がワークシート(導入)を交換し、互いの要旨を比べた。その際、ワークシートに他者の要旨について感想やアドバイスを記入し、相互評価を行った。他者からの感想やアドバイスと他者の要旨を参考にし、訂正すべき点を書き直した。他者の意見を参考にし、要旨のまとめ方が改善された生徒も多く見られた。



グループワークで読みの交流を行う生徒

2 時間目は、返却された前時のワークシートを見直した。数名の指名された生徒が、要旨の根拠を説明した。クラスの仲間がまとめた要旨の根拠を聞いて、うなずいたり、感心したりする生徒も多かった。その後、教師がまとめを行い、生徒は教師の説明を聞いてポイントとなる文に線を引き、要旨をまとめ直す作業を行った。教師は、1 時間目に要旨をまとめるポイントを示していないので、この2 時間の学習活動を通じて、生徒は自分がどれだけ要旨をまとめることができたのか、またポイントを押さえていたのか、現時点の力を確認し、自分に不足していた点を補った。

3 時間目は、「比べ読み」ワークシートに、「インターネットの受信・発信に関する自分の意見」を200 字程度でまとめた。この作業は、文章を通読する前に評論に書かれた内容について自分なりの意見や考えを明確にするために行った。インターネットの利点ばかりにとらわれている生徒がいる一方で、これから読む評論文の趣旨に近い内容や使用されている語句を用いて作文を書いた生徒もあり、生徒のインターネットに対する姿勢や考えが多様であることがわかった。次に内容のあらましをつかむため数名の生徒が指名された意味段落を音読した。ワークシートを配布し、次時にどのようなワークシートを作成するかを確認した。ワークシートを作成する際にポイントとなる文章には傍線を引くように教師が指示をし、「ネットが崩す公私の境」と「汎メディアの社会」を黙読しながらポイントとなる箇所に線を引いた。

4 時間目は、前時に線を引いた部分をもとに、両作品の「発信」「受信」について述べられている重要な事柄を抜き出し、両作品の共通点・相違点・筆者の主張についてまとめた。その際、根拠にも着目しながらワークシートをまとめた。その後作成したワークシートをもとにグループに分かれ意見を交換し、グループ全体の意見をまとめた。話し合いの中で、読みの十分でない生徒に対し支援をする生徒も数名見られるなど、読みの交流は大変活発に行われた。

5 時間目は、ワークシートの指名された設問について発表した。グループの代表者の発表に対し、他のグループが質疑応答する形式で行った。両作品の共通点・相違点や筆者の主張については容易に示すことができたグループも、他のグループから「なぜそのように言えるのか」「具体的に説明してほしい」「私たちの意見とは違う」等の意見や質問を受け、悩んだり考えを深めたりしながら回答をしていた。

6 時間目は、第3時に書いた作文を読み返し、読み比べた文章をふまえ、再度同テーマにつ

いて作文を書いた。日ごろ作文が苦手な生徒も、二作品の同一テーマを学習した後のため、自己の意見を表しやすかったようで、作文が全く書けない、という生徒はいなかった。これまで、メディアやインターネットの「発信」ばかりに着目していた生徒が、「受信の姿勢を学ぶことができた」と書いており、比べ読みの前と後に書いた作文では内容に違いがでた。「受信・発信」について、やはり自分の立場は同じだと主張する生徒も、自己の意見に具体例や具体策を加え、深みをもたせることができた。最後に本単元を終えた自己評価を評価シートに記入した。

(2) 生徒の変容

ア 「関心・意欲・態度」について

インターネットという、日ごろ慣れ親しんでいるメディアについての文章に対しては関心が高く、筆者の意見と自分の意見との比較を十分に行うことができた。

1時間目の要旨を相互評価する活動や、4時間目のグループワーク、5時間目の発表など、他者の評価を意識しながらの作業であったため、通常の「読むこと」の指導でおこりがちな受身の姿勢が、主体的に文章に取り組む態度へと変容している様子が明らかであった。単元終了時に記入した評価シートの「グループワークを通じて、評論文の読みを積極的に交換することができた」には、93人中88人が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した。加えて自由記述欄には、「班での活動が楽しかった」「班に分かれての活動が文章を理解するのに役立った」等、グループワークに肯定的な意見を記す生徒が53人と、半数を超えた。グループワークが、生徒の関心や主体的に取り組む態度を引き出すことに効果的であったと言える。

イ 「読む能力」について

読み比べを行う前に、筆者の意見と自己の意見とを区別し、自己の意見を明確にするため作文を書いたことが、その後の読み比べの作業に役立ち、自己のものの見方や考え方を深めるのに効果的であった。また、グループワークで自己の読みと他者の読みとの交流を行ったことが、考えを深めさせ、主体的に読み取る態度を養うことにつながった。評価シートの「二つの文章を参考にし、自分の立場を定めることができた」には、93人中89人が「あてはまる」「ややあてはまる」と解答した。評価シートの自由記述欄には、「日ごろ意識せず使っているネットに対して考えが深まった」「インターネットを使用する時は、受信・発信とも、見えない相手のことを考える必要があると思った」等の記述が見られた。また第6時に書いた作文にも、ネットの功罪、使用上の留意点等、新時代のメディアに対する考えなどを深めた文章が多く見られた。



他のグループの発表に対して手を挙げて質問する生徒

通常の指導では、「評論文を読む」ということに抵抗感をもつ生徒が少なくないが、今回の授業に対して生徒の反応は良好で、特に比べ読みに関しては37人の生徒が「二つの文章を比べることは興味深い」という感想を評価シートの自由記述欄に記していた。

ウ 「知識・理解」について

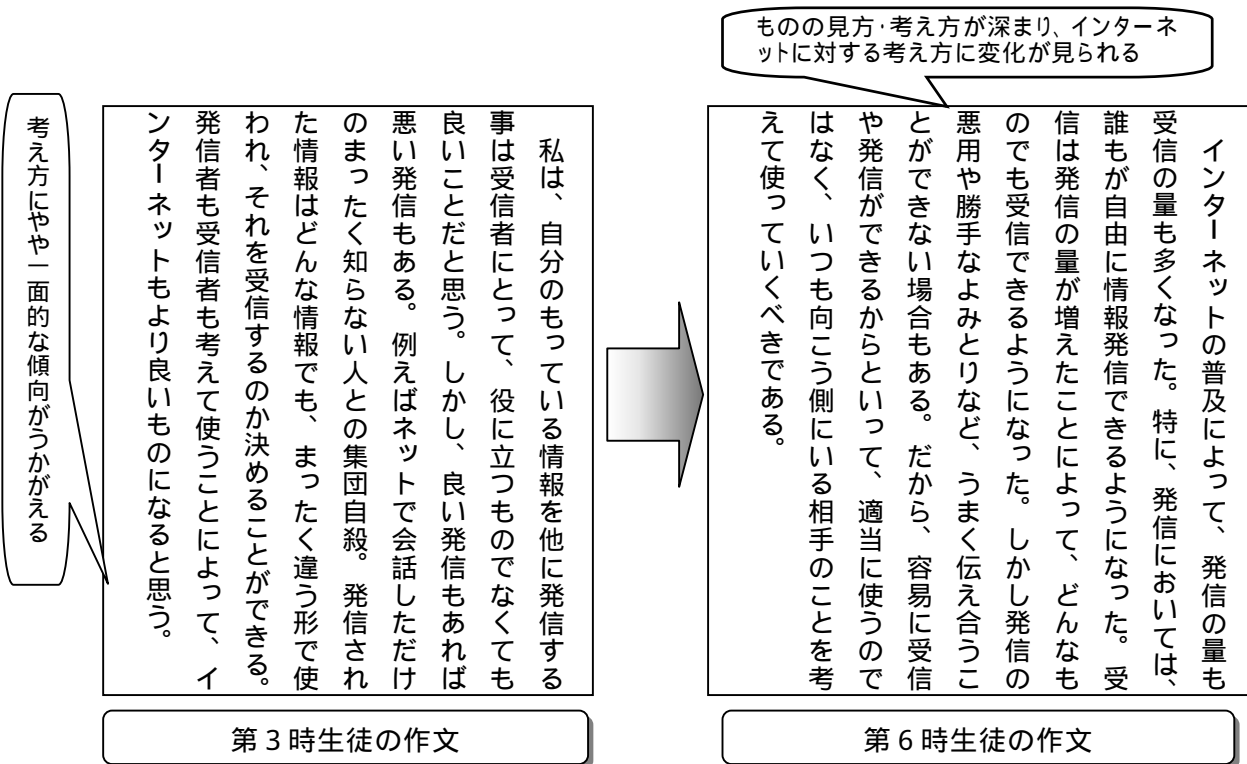
要旨をまとめる方法はなんとなくわかっていたものの、根拠をもってまとめるという作業を行った結果、あいまいな理解が確かなものへと変わり、

修正	根拠	ことがら	ネットが崩す公私の境	筆者が現代の「受信」について述べていることがらで重要だと思われることを簡潔書きにしてみよう。また根拠となる部分があれば、抜き出してみよう。 グループでの話し合いの結果、修正が必要な場合は修正欄に記すこと。
必要な情報が瞬時に取り出せる。 とりとめもない理解・思いがネット上にとりあげられる。	無限に近い不必要な情報に關与することなく、適切な検索手法によって、必要な情報だけを的確に抽出することが出来るから。	情報の総量を制限したり、情報を内容や質によって淘汰したりする力が働かない。	ある意味で勝手な読み取り。	
ある意味で勝手な読み取り。 一人一人が自分の感性と理性で読み取っていく。	あらゆるものをメディアとしてとらえること、メッセージをよみとることが人々の関心をよぶ。		ネットが崩す公私の境 汎メディアの時代	

第4時ワークシート（受信）の記入例

「自信をもって要旨をまとめられるようになった。」と自己評価する生徒もいた。「評論文の形式や組み立てを理解し、テーマが同一でも、論の展開は様々であることを理解した」という質問に対し93人中88人が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した。

以上、主に自己評価表の記入から生徒の変容を記したが、今回の授業では、その自由記述欄に全員が意見を書き表した。アンケートや評価表の自由記述欄には何も書かない生徒が通常数名はいるものだが、この点からも生徒が意欲をもって授業に取り組んだことがわかった。加えて、その記述した内容は、肯定的な意見が87人と全体の9割以上を占めており、生徒一人一人が「主体的に授業に取り組むことができた」ことをよく表していた。



7 成果と課題

(1) 学習の成果

今回の検証授業では、下記の成果があったと考えられる。

文章の要旨をまとめるという作業に、相互評価を取り入れたり、読みの交流を行ったりする活動を通じて、「受動的に読む態度」から「主体的に読む姿勢」へと変化が見られた。比べ読みのグループワークでは、読みの交流を積極的に行うだけでなく、筆者の主張を、根拠を基に読みとった生徒から、表面上の読みにとどまっている生徒への説明がなされ、教師の説明によることなく、懸命に理解しようという姿勢を育てることができた。グループワークを通して、クラスの仲間と文章に対する意見交換を行い、読みを深めながら要旨を的確に把握することができた。同一テーマでも異なった意見や論の展開の仕方があることを理解できた。複数の他者の意見を基に、自己の立場を定め、考えを深めることができた。「話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと」を組み合わせた活動を通し、自らの読みを深めることができた。

以上の成果から、研究の仮説「比べ読みや自他の読みについての意見交流など、読みを深める活動を段階的に行っていけば、伝え合う力の基礎となる主体的に読む態度や的確に読み取る能力が身に付くであろう」を実証できたと考える。

(2) 今後の課題

今後の課題として以下の3項目を挙げる。

グループワークは大変活発に行われたが、後半になるとやや集中力がなくなった。活動にめりはりをつける意味でも、前後半で作業内容を変えるなどさらに工夫の余地がある。比べ読みの教材が、一部の生徒にとってはやや難しく、比べ読み以前の各文章の読解に時間を要した。授業時間内にCの生徒への手だてとして意味内容確認ワークシート等を用いて読解の不足を補ったが、語句の意味調べや内容をまとめる活動は課外に行うことも考えられる。グループの代表者が発表する際、他のグループに必ず質問を出させ答えさせたが、質問に答えられないグループもあった。次の時間に回答の場を設ける等、最後まで考えさせることも必要である。

第6時自己評価表

全ての生徒が自由記述欄に前向きな意見・感想を記入していた。

年 組 番 氏 名		『ネットが興す公私の境』 『汎メディアの時代』 比べ読み自己評価表				
①二つの文章に書かれた筆者の主張を、的確に読み取ることはできた。	◎	◎	◎	◎	◎	◎ ◎ △
②二つの文章の共通点・相違点を探み取った。 ◎ 相違点を探み取って筆者の主張を示した。	◎	◎	◎	◎	◎	◎ ◎ △
③評論文の形式や構造を把握し、テーマが同一でも、論の展開は様々であることを理解した。 ◎ 読者の視点を理解した。 ◎ 論題の展開を理解した。	◎	◎	◎	◎	◎	◎ ◎ △
④グループワークを通じて、評論文の「読み」を積極的に交換することができた。 ◎ 自分の意見と他者の意見を区別して話し合った。 ◎ 他者の意見をふまえて自分の読みを修正した。(または他者に読みをアドバイスした)。	◎	◎	◎	◎	◎	◎ ◎ △
⑤二つの文章を参照し、自分の立場をたのむことができた。 ◎ メディアにおける「受動」「能動」について自分の考えを述べた。 ◎ 今後、自らが「受動」「能動」する際の留意点を考えた。	◎	◎	◎	◎	◎	◎ ◎ △
⑥授業を通しての感想(自由記述)	◎	◎	◎	◎	◎	◎ ◎ △

まとめと今後の課題

1 研究の成果

本研究では、国語の3領域の力を関連させて発揮させることができない生徒に対し「聞く力」「読む力」を身に付けさせることを目標とし、研究主題を「伝え合う力の基礎となる言語の受け手の能力を高める指導の在り方」とした。そして、最終的にはこの研究を「聞く力」「読む力」の向上にとどめず、「話す力」「書く力」を組み合わせるものにするを念頭に置いた。

「聞くこと」では、聞くことの重要性を意識する活動から、聞き取った内容を受け止め考えを深める活動へと段階的に進めていけば、伝え合う力の基礎となる主体的に聞く態度や的確に聞き取る能力が身につくと考えた。始めは聞き取る作業においてメモを取ることに大変だった生徒が、徐々に話の流れを押さえられるようになり、友人との意見交換、そして大人へのインタビューに意欲をもって取り組むようになっていった。その結果、生徒は「聞くこと」の楽しさ、大切さを認識すると同時に人の意見に耳を傾けることの難しさを実感した。発表会において自主的に聞き返しや質問をするなど、聞こうとする姿勢が身に付いたと感じられたのは何よりの成果である。また、「聞くこと」だけではなく話し手の話しやすい雰囲気作りにも気を配る生徒が出てきたことやHR担任から学校生活全般において生徒の聞く姿勢が良くなったという報告を受けたことは私たちも予想しなかった波及効果であった。

「読むこと」では、比べ読みや自他の読みについての意見交流など、読みを深める活動を段階的に行っていけば、伝え合う力の基礎となる主体的に読む態度や的確に読み取る能力が身に付くと考えた。これまで受動的な態度が目立っていた生徒が、友人との意見交換やグループでの話し合いを活発に行い、主体的な態度で読む姿勢を見せるようになっていった。その際、筆者の主張とそれを支える根拠を考えながら把握していくという指導により、要旨をまとめることに自信をもったと自己評価する生徒も現れた。また、グループワークを取り入れたことによって、個人の意見交換からグループ同士の意見交換へと話し合いに広がりをもたせることができた。生徒が友人の様々な意見を通して自分の立場を明確にし、それによって考えを深めていったことはこの実践の大きな成果である。評論文に抵抗感をもっていた生徒が積極的に取り組んだことは、今後の授業での読みにも影響を与えるものと確信している。

二つの検証授業の結果、生徒が「聞くこと」「読むこと」に新たな関心・意欲をもって取り組んだことが確認できた。また、インタビューや比べ読みなどの活動を単に「聞くこと」「読むこと」の学習として行うのではなく、「話すこと」「書くこと」の指導と関連付けて行うことで、国語の3領域が有機的につながり、国語力を高める上で効果的であると改めて確認できた。

また、今回の研究ではワークシートを多く活用した。生徒の進度に違いが出ることも予想し、Aの生徒には発展的な問題を、Cの生徒にはまとめやすい別のワークシートを用意した。その結果、教師は一斉授業の形態の中で、個に応じた指導を行うことができた。

2 今後の課題

今回の検証では「聞くこと」で随想文を、「読むこと」で評論文を扱った。本研究を継続的に展開していくために、古典・短歌・俳句等の教材に応用していくことが今後の課題の一つと言える。また、本研究と通常の授業につながりをもたせるためにも年次を追った指導計画を作成し、今回の検証で得た生徒の興味と主体的な態度を発展させていくことが重要な課題となる。

平成16年度 教育研究員名簿(国 語)

	地区	学 校 名	氏 名
1	1	都立九段高等学校	廣 澤 美恵子
2	1	都立三田高等学校	安 野 徹
3	3	都立富士高等学校	小 泉 清 香
4	4	都立向丘高等学校	阿 波 洋
5	4	都立千早高等学校	廣 瀬 愛
6	7	都立町田高等学校	松 原 志 保
7	8	都立秋留台高等学校	米 長 時 正
8	8	都立羽村高等学校	竹 内 亜希子
9	10	都立第五商業高等学校	山 田 さとみ
10	10	都立南野高等学校	森 優 子

世話人 副世話人

担当 東京都教職員研修センター指導主事 高 田 純 一
指導主事 善 本 久 子

平成16年度教育研究員研究報告書

〔 東京都教育委員会印刷物登録
平成16年度 第21号
(東京都教育委員会主要刊行物) 〕

平成17年1月24日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 鮮明堂印刷株式会社